

FD・SDセミナーに参加して

日野キャンパス管理部学務課教務係
堀込 百合子

5月末の緑深い八王子セミナーハウスにて、今回のこのセミナーは実施された。当日はあいにくの雨模様ではあったが、そのせいかより一層静かな環境の中で、講師のみなさんのお話を拝聴できたように感じられる。

大学全入時代の到来と言われるように、現代の大学の置かれている状況は大変厳しく、大学間の競争も年々激しくなっている。この淘汰の時代を生き抜くためには、教員と職員とがそれぞれの責務を全うするのみに留まらず、互いに協力し合い、大学の教育・研究活動をより豊かな魅力あるものにしていくという一つの目標に向けて努力を絶やさないことが必要であると思う。そのような状況の中、このように教員と職員とが一堂に会してセミナーが実施されたということは、教員と職員とが共通認識を持ち一丸となるきっかけとして、とても良い機会だったように思う。

また私自身としては、この4月から、職種、勤務地の変化があった。その新たな節目の時期にあたり、改めて大学を取り巻く環境や、首都大学東京の現状の一端を認識するのに絶好の機会ともなった。

セミナー冒頭では、国際基督教大学の元学長である絹川正吉先生により、大学における「共通教育」の必要性についてご講演があった。中でも、全入時代を迎えた現

代の大学では、共通教育の重要性が高まったこと、共通教育では、知識の習得のみならず学生自ら活用できるような教育を行うべきであること、学士課程では、専門人ではなく「専門ある教養人」を育成することを目指すべきであることを、先生ご自身の体験として国際基督教大学での事例を交えて語られたのが印象的であった。

また、2日目には、職員を対象として、内藤総務部長からお話があったが、そこでの「逃げない」「諦めない」「嘘をつかない」「笑顔」「ありがとう」「ごめんなさい」の6つのキーワードについては、私も常に心に留め、今後の業務に取り組んでいきたいと思った。

一方、このセミナーは宿泊研修であったので、懇親会や部屋等において、他部局の方々とゆっくりとお話をする貴重な機会となった。首都大学東京をより発展させていくためには、人と人、部局と部局等で協力していく体制が不可欠であると思うので、今後もこの繋がりを大切に活かしていきたいと思う。

今後も、この研修で感じた初心を忘れることなく、公立大学法人首都大学東京の一員として、大学・高専の発展に寄与することができるよう、努力していきたいと思う。